



カワツザクラ

「やまびこ通信」

第18号 令和6年3月発行



ツバキ(さつま)

■ この一年を振り返って

今年も2月に成果発表会を上富田文化会館で開催しました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、4年ぶりに制限のない形での開催となり、大勢の皆さんにご参加いただきありがとうございました。また、昨年度に引き続きWEB配信も行いました。

昨年は4月に岸田首相が「花粉症はわが国の社会問題」との発言から、国や都道府県等が実施している少花粉や無花粉など花粉症対策品種への取り組みに注目が集まりました。当試験場も例外ではなく各種メディアからの取材依頼に、中辺路試験地での取り組みも含め担当者が対応しています。引き続き県庁森林整備課・各振興局林務課とも連携し花粉症対策苗の技術開発に取り組んでいきます。さらに、無花粉スギの品種登録も目指します。

また、『脱炭素社会』を合言葉に、近年大手ゼネコン企業が、都市部での高層ビルやマンションに木造・木質建築を採用することが増えています。今後、国内の住宅着工数が減少していく中で、非住宅分野(中大規模施設)での木造建築に注目が集まるのは木材業界にとってはまさに追い風です。

本県でも昨年度竣工した「ドクターヘリ格納庫(面積約400㎡)」や「熊野高校・講堂(同約800㎡)」、今年度の「畜産試験場本館(同約280㎡)」も「和歌山県木材利用方針」に沿って当初から木造建築で設計されています。

このような状況を公共建築物だけでなく民間建築物へも拡大していくためにも、JAS(日本農林規格)に基づく保証された品質の製材品を適正価格で安定供給することが欠かせません。

当試験場においても、紀州材の需要拡大に向けて、非住宅分野での木造建築に要求される製材品の強度性能試験等のデータ蓄積を図るとともに、その成果を県内外に紀州材の特性として発信していくことが、県内製材業界のJAS認定工場拡大への一助となればと考えます。

今年度も残すところ後わずかとなりましたが、来年度も引き続き当試験場の運営並びに試験研究の実施にご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

(場長 東山 貢)

■ 令和5年度成果発表会 発表内容

令和6年2月14日に上富田文化会館において、令和5年度成果発表会を開催しました。

以下のとおり、5課題の「口頭発表」と各部毎に「ポスター発表」も行いました。

また、当日参加できなかった方にもご覧いただくため「口頭発表」は、研究員の発表を動画に収録し、「YouTube」にて3月28日まで配信も行っています。まだ視聴可能ですので、課題毎のURL・QRコードにアクセスをし、この機会に是非、ご視聴願います。

なお、ご質問等があれば、発表者へ直接、電話・メール等をお願いいたします。

◆ 口頭発表 (要約)

◎ 「無花粉スギの創出と選抜について」

(<https://youtu.be/eDQHamCWN54>)



経営環境部 研究員 松久保 康輔

林業試験場は、和歌山県の気候に適応した精英樹に由来する無花粉スギの創出を目的として、2000年より人工交配、調査選抜を行っている。無花粉スギのさし木苗で造成した検定林にて精英樹と同等以上の初期成長を示す個体の選抜を行ったところ、20系統が選抜された。今後、材質調査等を行い、材質に優れた無花粉スギを選抜し、品種登録を目指す。



無花粉



有花粉

◎ 「獣害対策資材について ～鉄鋼スラグ、メタルラスの活用～」

(<https://youtu.be/vCqHWzBIIWA>)



経営環境部 主任研究員 法眼 利幸

鉄鋼スラグ舗装と電気柵を組み合わせると高い通電性を維持しながら草刈り作業を軽減でき、10年後もその効果が維持されることが分かった。(果樹試験場との共同研究)

メタルラス（モルタルや漆喰などの下地に用いる金属製の網）を7年前に設置したウバメガシは萌芽更新していたため、植栽木等のシカ食害対策として使えると考えられた。現在、メタルラスは錆びて分解しつつあり、回収は必要ない可能性がある。



鉄鋼スラグ舗装+電気柵



メタルラス設置状況

◎「林業試験場中辺路試験地の取り組みについて」

(https://youtu.be/6vzx2_IKLkU)



経営環境部 主査研究員 松本 康久

林業試験場中辺路試験地では、県内の植林地に山行き苗木を安定的に供給するため、スギやヒノキの優良な種苗を育成している他、松くい虫被害に対する抵抗性マツ苗や里山再生・広葉樹林用の緑化木、花粉症対策に関する品種の育成・研究等に取り組んでおり、その内容について紹介する。



閉鎖型スギ特定母樹採種園



スギミニチュア採種園

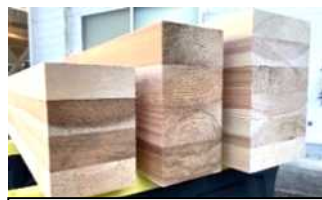
◎「大径材から生産されるラミナを使用した接着重ね梁の強度性能」

(<https://youtu.be/YcVlxxARVK8>)



木材利用部 部長 山裾 伸浩
研究員 一岡 直道

県産スギ、ヒノキ大径材の活用に向け、大径材から生産されるラミナの強度分布や、そのラミナを使用して作製した接着重ね梁の強度性能に関する知見を得た。これらの成果



接着重ね梁イメージ

は、県産大径材からラミナを加工し、強度性能が明らかな横架材を作製するためのデータとして活用できると考えられる。

◎「ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」防除技術の早期確立」

(<https://youtu.be/qWHDHyxYGcw>)



特用林産部 主任研究員 田中 作治

ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」の防除技術の早期確立のため、病害の発生消長調査及び菌糸伸長試験、病原菌の感受性検定、薬剤効果試験を実施した。その結果、5月中旬から10月下旬に被害拡大することと、2種類の薬剤（ベンレート水和剤・トリフミン水和剤）に十分な防除効果があることがわかった。



枝葉枯れ症状

◆ポスター発表

口頭発表以外にも研究成果をポスター等にして展示し、来場者からの質問等に応えました。特に、現物資料の展示は好評で、接着重ね梁、クビアカツヤカミキリの標本、メタルラス、クマノザクラ、サカキ新種ヨコバイ、ヒサカキの病害、アセビ出荷サンプル、イタドリの「健康茶」の試飲、ブドウハゼ接ぎ木苗の結実状況など、見て・触れることで研究成果をより身近に感じていただけたと思います。



研究員による説明



イタドリ部会による
共同開発商品の紹介

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/>

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。